

雲北陵月報

No. 462

令和6年2月29日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷



可能性を信じて

学年主任 飯塚 康弘

校庭の木々の芽もふくらみ、春の気配が近づいてきました。3年生の皆さん卒業おめでとうございます。夢と希望を胸に入学してきた皆さんも卒業の日を迎えることとなりました。過ぎてみれば早い3年間ですが、日々努力を重ね頑張ってきた高校生活であったと思います。これからはそれぞれの進路で目標や夢を掲げ、その達成を目指して様々なことを積み上げていくこととなります。目標を成し遂げ心躍る時もあれば、思い通りにならない壁に突き当たることもあるでしょう。そんなときも決して「自分には無理だ」とは考えず、自分の持っている力を信じて物事に当たって欲しいと思います。「壁」というのは、できる人にしかやっかない、越えられる可能性がある人にかやっかってこない。だから、壁があるときにチャンスだと思っている。」と元プロ野球選手のイチローは言っています。ピンチをチャンスと捉え前向きに積極的な行動をとるのは、とても勇気がある行動ではないかと思えます。



真摯な姿勢を

三年一組担任 福岡 宣弘

卒業おめでとうございます。一部のを除き、皆さんとは2年間の付き合いでは初対面という感じでしたが、毎日の朝終礼や授業、行事等を通じ、皆さんとの距離は縮まっていったと思います。そして、皆さんの成長を大きく感じたのは、3年生最初の面談の時です。その時点ではまだ未定のこともあったと思いますが、自分の進路について真面目に考えている様子がひしひしと伝わってきました。真面目さだけでは物足りないという人もいますが、やはり真面目なことは重要です。今後、大変な場面に遭遇することがあるでしょうが、物事に向き合うその真摯な姿勢があればきっと乗り切ることができると思えます。



ご卒業おめでとうございます

三年二組担任 春日 啓伸

皆さんが過ごした3年間は、人生のたまゆらとも言える、ほんの僅かな月日だったかもしれませんが、とても充実したかけがえのない思い出となったことでしょう。

これからの人生は、様々な現実が待ち受けていることでしょう。楽しいことばかりではなく、辛い苦しいこと、悲しみに暮れること、知らぬ間に人を悲しませてしまうこともあるかも知れません。それでも皆さんは、迷いつつも軌道修正をして、前を向いて歩まねばなりません。ただ、そんな時でも、あなたを「柔（やさ）しく剛（こう）」側で見守ってくれている家族や友人がいることに気づくはずですよ。そう感じるだけで、涙がこぼれるほど有難い思いになることでしょう。そんな歌を私から贈ります。

『なにこのおはしますかは知らねども
かたじけなさに涙こぼる』（西行法師）

この歌は、素直に感謝の気持ちに心振るわせる意味を含んだ歌です。

卒業生の皆さん、今日まであなた方を見守ってきたご家族、良き友人への感謝の気持ちを忘れず、幸せな日々を勝ち取ってください。更なるご活躍とご多幸をお祈り致します。

明日に揺蕩う 歌をうたおう



三年三組担任 金森 快

三年生の皆さんご卒業おめでとうございます。レールの見えない時代をどう生き抜くか。共に前へ進みましょう。

応援の言葉として、好きな歌の歌詞を送ります。

送ります。

もしもあなたの 夢破れ
行き先のない 日々は暮れゆく
信じることをさえてできなくなれば
せめて私が 声にして

明日に揺蕩う 歌をうたおう
花のように 花のように
ただそこに咲くだけで 美しくあれ

人はみな 人はみな
大地を強く踏みしめて それぞれの花
心に宿す 『花』

一度しかない人生が感動で溢れ、素晴らしい時間となりますように。

ありがとう!!



三年四組担任 岡 由美子

卒業おめでとうございます。皆さんと共に過ごしたのはわずか一年でした。しかしその短い時間の中でも、担任として様々なことを皆さんと共有できたことを心から有難く、幸せに思います。

この一年は進路決定のための日々だったといっても過言ではありません。志望理由書作成やプレゼン・面接練習、小論文や学科試験の準備…。受験のプレッシャーがのしかかる中、一人ひとりが一杯取り組みました。楽しい行事もありましたね。特に学園祭では、周りに配慮しながら主体的に動く姿に安心すると同時に、クラスの親和性の高さを実感しました。

これから新しい世界に羽ばたいていく皆さんに贈る言葉は「誠実であれ」です。いつも真面目で立派な人間でいることは難しいでしょう。でも、どんな状況にあっても、自分の信じるものに誠実であることだけは譲らないで欲しい、そう願っています。

卒業おめでとう

三年五組担任

鈴木 雄介



ご卒業おめでとうございます。

3年生から急に担任が変わり戸惑いも多かったと思います。中澤先生には副担任として支えていただきました。本当に有難うございました。昨年度の3年生に引き続き、2年連続で特進コースの3年生を担当させてもらいました。とても大きな不安とプレッシャーがありました。受験を目前に控えている状況でどう関わっていくことが皆さんにとって最善なのかを試行錯誤しながらの毎日でした。日々、皆さんが葛藤し、変化し、成長していく姿、自分の未来を切り開く姿は素晴らしいです。そんな姿を間近で体験させてもらって本当に有難うございました。皆さんは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在です。良い所も悪い所も全部自分です。これからもうまくいかないことはたくさんあります。そして、あなた達はまだまだ成長します。これからも自分の心を大切に、自分らしく、楽しみながら突き進んでください。

卒業おめでとう

三年六組担任

竹内 康貴



朝教室を覗くと、いつもの雑談や笑い声はなく、机と椅子だけが静かに佇んでいます。6組の皆さんがいらない教室を見ると、ただただ寂しさが込みあげてきます。芸術コースの22名は、この3年間、学業や部活動、芸術活動において、互いに切磋琢磨、よく努力し、高みを目指して成長しました。皆さんは、本校に素晴らしい足跡を残しました。本校で培った経験と出雲北陵高等学校卒業生としての誇りを胸に「美しく剛く」、立派な社会人になってください。そしていつまでも変わらない君達でいてください。皆さんのこれからの活躍を心から祈っています。

いよいよ巣立ちの時。皆さんとの別れは辛く寂しいですが、私も皆さんと一緒に新たな一歩を踏み出そうと思います。卒業、おめでとう！

卓球部

全国高校連卓球専門部冬季強化合宿
兼海外遠征二次選考会
時 1月4～7日
於 マエダアリーナ（青森）

【最終順位】優勝 小野泰和（25歳）
（予選リーグ）2位（13勝1敗）
（1～6位リーグ）1位（4勝1敗）
○大会総評



優勝した小野泰和

7月にバトナムで開催される国際大会の日本代表選考会に小野泰和が出場した。全国上位44名が3グループに分かれてリーグ戦を行い、予選リーグ1・2位の選手6名で代表決定戦が行われた。小野は得意としているラリー戦で得点を重ね、全体の1位で代表権を得ることができた。世界大会でメダルを獲得できるよう今後も精進を重ねていきたい。（顧問 古瀬泰之）

天皇杯・皇后杯2024全日本卓球選手権大会（一般ジュニアの部）
時 1月22～28日
於 東京体育館

小野泰和（25歳）第3位

島根県勢50年ぶりの快挙！
（ジュニア男子シングルス）

3位 小野泰和
ベスト16 黒田昌秀（25歳）
（一般男子シングルス）
4回戦敗退 佐藤卓斗（34歳）
（男子ダブルス）
4回戦敗退 佐藤卓斗・小野泰和 組
○大会総評



ジュニアの部に出場した小野泰和が島根県勢としては50年ぶりとなる3位入賞を果たした。初戦から厳しい試合の連続であったが、得意とするフォアハンドを生かして、競り合った場面でも積極的にプレッシャーがかったことが好成績に繋がった。今後更に精進し、日本を代表する選手に成長してくれることを期待している。（顧問 古瀬泰之）

サッカー部

島根県高校サッカー新人大会
時 2月2日
於 松江商業高校

1回戦
本校 0「0-1」4 出雲
○大会総評

今年度の新人戦は出雲商業、出雲農林との合同チームで参加した。部員が少ない状態で大会に出る機会を与えていただいた関係者の方々に感謝したい。



1回戦の相手である出雲高校は、県リーグ1部に所属、県内でも屈指の実力を持つており、挑戦するに相応しいチームであった。開始から雰囲気は飲まれてしまい、早々に2失点してしまった。その後、落ち着きを取り戻し、選手全員が挑戦しながら戦ってくれた。チャンスを何度か作り出したが、1点が遠く、力及ばず敗戦となった。この思いを忘れず、改めて今後のトレーニングに励みたい。最後になりましたが保護者の皆様をはじめ、多くの方々のご協力をいただき、有難うございました。（顧問 鈴木雄介）

男子バスケットボール部

中国高等学校バスケットボール新人大会
時 2月9～11日
於 維新百年記念公園維新大昇アリーナ

1回戦 本校57-93 宇部工業（山口県）
初戦敗退
○大会総評

今年度地区の上位が集まった大会であったが、今年度は山口1位で出場した宇部工業と対戦し完敗した。インサイドを中心とした布陣で挑んだが、外角から攻め込まれ、終始相手にペースを握られ苦しい試合となった。多くの課題が見つかったが、一つひとつ課題を克服し、全国で勝ち上がれるよう精進していきたい。最後にありますが、校長先生をはじめ、保

吹奏楽部

ふれあいコンサート
時 2月11日
於 大社文化プレイスうら館 だんだんホール

【演奏曲目】
・ファイヤーストーム/J. ヒギンス
・ウィー・アー・ザ・リーズン/D. ミース
・エル・ティグレ/J. ヒギンス
・虹の彼方に/H. アーレン
・トリユーバー・サリユート/J. ボコック



出雲地区の各校吹奏楽部による、新メンバーになって始めてとなる「ふれあいコンサート」が開催された。本校は、1・2年生32名と、カラーガードとして3年生5名で、ステイジドリルで出演した。少ない時間であったが、部員達は精一杯の努力をし、本校らしいステイジを披露し、観客からは大きな拍手をいただいた。来年度も皆さんに愛されるバンドを目指し、日々精進していきたい。（顧問 竹内康貴）

合唱部

第35回松江プラバ室内合唱コンクール
時 2月4日
於 島根県民会館

2月4日、島根県民会館で行われた第35回松江プラバ室内合唱コンクールに参加した。このコンクールは、1・2年生での初めてのコンクールであったり、全国大会に直結したコンクールであったりと、生徒達は緊張感の中にもやる気に満ちた表情で本番当日を迎えた。本番ステージでは、練習の成果をしっかりと披露した。ホール中、練習の成果をしっかりと披露した。結果は、高等学校部門を通しての銀賞第2位を受賞することができた。目標とする全国大会出場は残念ながら叶わなかったが、今後の取組を考えるいい機会となった。更に、日々の緻密な練習を重ね、演奏の質の向上を図りたい。（顧問 布野浩志）

企業見学会



2月16日に、2年生の就職希望者40名が県内の企業4社を見学させていただいた。各企業の担当者の方の説明を聞き、その後職場を見学した。希望する企業でない人もいたかもしれないが、他社を見聞きすることで比較ができる。3年生からの就職活動がスタートする前に、貴重な情報を得ることができた。

お忙しい中、見学を引き受けていただいた企業の皆様、そして出雲地区雇用推進協議会の皆様には大変お世話になりました。厚くお礼申しあげます。

令和5年度全商検定結果

○令和5年6月25日実施
第96回簿記実務検定試験 2級合格 22名
○令和5年7月9日実施
第12回ビジネスコミュニケーション検定合格 9名
○令和5年11月26日実施
第71回ビジネス実務検定試験 3級合格 24名
○令和6年1月21日実施
第70回情報処理検定試験 3級合格 22名
○令和6年1月28日実施
第97回簿記実務検定試験 1級(財査)合格 16名
3級合格 38名

情報ビジネス系の生徒を中心に多くの合格者が出た。特に簿記1級合格は近年にない実績である。次は6月の原価計算で1級合格を目指したい。

(商業科主任 永瀬貴之)

卒業直前講座



時 2月14日
於 本校中高棟ホール
卒業を間近に控えた3年生を対象に、お二人の講師をお招きして卒業直前講座を開催した。まず、本校卒業生会会長でもある税理士森脇俊樹先生から「租税教室」先輩からのアドバイス」と題し、租税について

クイズなどを交えながら分かりやすくご講義いただいた。

次いで弁護士中井洋輔先生には「成年年齢の引下げ、消費者トラブルに注意!」と題し、多くの事例を参考しながら消費者トラブルの怖さについてお話をいただいたが、卒業して行く生徒達にとって大切な学びの時間となった。

美術・CGデザインコース 第23回卒業制作展



会場の様子

時 2月10・11日
於 出雲文化伝承館
美術・CGデザインコースの3年間の集大成である卒業制作展を出雲文化伝承館で開催した。昨年は大幅に上回る336人の来場者をお迎えし、賑やかに開催することができた。本年は「ルーツマンション」をテーマに、それぞれの個性を生かしながら1年をかけて製作、運営・広報にあたった。会場は個性あふれる力作が並び、高校生らしい爽やかな展覧会となった。今後はそれぞれの進路に進むが、この3年間を糧に将来に向かって努力を続けてくれることを期待している。開催にあたり、ご支援いただいた皆様に厚くお礼申しあげます。

音楽コース 第31回卒業演奏会



時 2月10日
於 ビッグハート出雲白のホール
音楽コース31期生13名による卒業演奏会を開催した。生徒達はそれぞれ各専攻教官の指導の下で積み上げた力を発揮し、3年間の集大成となる見事な演奏を披露した。ここに至るまで様々な形でご支援、ご声援を賜りました保護者の皆様をはじめ、各専攻教官の皆様、地域の皆様、ご来場いただきました皆様、関係者の皆様に心から感謝申しあげます。

普通救命講習(保育・看護・医療系)



2月14日(水)に出雲消防署において実施された救命救急講習に看護医療・保育系列の生徒28名が参加した。講習では、救命の基礎となる胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの使用手法など、人形を使って体験した。初めて消防士の方の話を聞いて実践していた。誰かを支援する、誰かを守る仕事を将来目指す生徒にとって、「命をつなぐ」という重要な知識と経験を身に付けることができた。(引率 永瀬貴之)

ダンス同好会



時 2月20日
於 ゆめタウン出雲
出雲ダンスフェス3ゆめタウン出雲当日は近隣のダンス団体が次々に登場し、フロアには多くの人が訪れた。まず1年生がトップバッターを務め、より成長した存在感で会場を魅了した。また2年生は少ない人数ながらそれを補うチームワークを発揮し、柔らかな振りや披露した。お誘いくださった主催者様、また応援に駆けつけていただいた保護者の皆様、有難うございました。(顧問 水谷田香)

中学校

卓球部

第53回後藤杯卓球選手権大会
(名古屋オーブ)カデットの部
時 1月21・22日
於 一宮市総合体育館

(男子シングルス)
決勝トーナメント
一回戦敗退 松崎優樹(中2)
予選リーグ敗退 波多間怜偉(中2)

○大会総評
現在の実力を知る、有意義な大会となった。課題を克服し、少しずつ力をつけていきたい。(顧問 相場翔太)

小林麟太郎(中1)

中学2年生スキー研修



時 2月2日
於 琴引フォレストパーク
本年度も中学2年生を対象としたスキー研修を実施した。はじめはスキー靴や板の感覚に苦戦していたが、インストラクターの方々の指導により楽しく滑ることができた。自然の壮大さや雄大さを肌で感じながら、集団で協力して行動することの大切さを学ぶことができた。

クラス行事を通して思い出を作ることができたことに感謝したい。今回の経験を今後の学校生活に生かし、更なる成長につなげたいと思う。

出雲科学館理科学習(中学1年)



時 2月7日
於 出雲科学館
出雲科学館理科学習が開催され、本校中学1年生が「火をあふ大地」を受講した。三瓶山で採取された火山灰をもとに、その中に含まれる石英、長石、黒雲母、角閃石、磁鉄鉱などの鉱物を双眼顕微鏡で観察した。また、分別した無色鉱物、有色鉱物の割合から三瓶山のマグマは粘り気の強い雲仙普賢岳タイプであること、約4千年前に噴火した火山灰は偏西風によって出雲を含む広範囲に降り積もったことを学んだ。その他、偏光板装置付き顕微鏡を用い、出雲地方の6箇所から採れた火成岩を色や組織の違いから分類する学習を班毎に話し合いながら楽しく考察できた。

最後に今年度もお世話になりました出雲科学館のスタッフの皆様へ感謝申しあげたい。

作品と研究

「礼法を学んで」

本校では、「礼儀作法」を学ぶ本校独自の「礼法」という教科があります。現在は、高校一年生が毎週一時間、講話を聞き、様々な実習を通して作法を身につけます。

吉川 隼(12歳)

僕は礼法を学んで思ったことが三つあります。一つ目は姿勢を正しくすることです。入学する前は姿勢が良いとはいえませんでした。礼法を学び正しい姿勢を取るようになると、何ごとにおいても集中しやすいことに気づきました。二つ目は挨拶と礼の大切さです。僕は声が小さくて地域の人にも積極的に挨拶をすることができませんでした。しかし、校内で先生方が大きな声で挨拶をしてくださるので、自分も大きな声で返さないといけないと思うようになりました。そのようにしていくと気づいたときには、自信をもつて、郊外の地域の人達にも挨拶できるようになっていました。三つ目はこの学校にすごく長い歴史があるということが分かりました。授業で学園の114年の歴史にふれました。歴代の校長先生方のことや、生徒三名からスタートした学校が今の出雲北陵高校になるまでのことを知り感動しました。伝統を受け継いでいる先生方や生徒がいるからこそ今の学校があるのだと深く感じることもできました。礼法という授業では他の教科とは違うことをたくさん学ぶことができました。

高野 愛未(14歳)

私が礼法で学んだひとつに、学校生活や部活動などで、他人が見ていないときにどのように行動するかということがあります。例えば、体育の着替えて簡単にたたんでいた制服を、席を離れたときに人に見られても恥ずかしくないよう置くようになりました。たたみかたの細かなところを意識すると驚くくらいきれいにたためるのです。また、職員室に入るときは、取っ手のすぐ上をノックして、両手で戸を開け、開いた側の肩から入るといって一連の流れを学びました。何度も実習したので、身についたと思います。これは、今後の進学や就職の面接試験にとっても役立つ大切なことだと思っています。更には、学校生活の中で意識していきたいのは、物の提出の仕方と物の受け渡しの仕方です。私は学級委員長をしているので、とかく提出物を集めることが多くあります。番号順にしてから、欠席者、未提出者の名前をそろえて提出することを心がけるということとを学びました。あたりまえのことですが、物を受け取った側の気持ちを考える良い機会となりました。また、物にはそれぞれの形や中身を考慮したさまざまな渡し方があることも学びました。相手が受け取りやすいように両手ですること、傘などがあるものは向きを考えること、傘などの長いものは縦の状態で渡すことなどです。授業で学んだことを意識して生活に生かしていきたいです。

佐久間雪乃(15歳)

私が礼法の授業で学んだことは、何に対しても感謝を忘れないということです。礼法の教科書には出雲北陵高校

の歴史から始まり、礼儀作法を学ぶうえで大切なことがたくさん書いてあります。しかし、その根底にあるものは、相手に対する感謝や敬意だと思っています。それを忘れてはいけないと思いました。創立者のキワ先生に、このようなエピソードがあるのを聞きました。キワ先生は授業前に、騒がしい教室には入れなかったそうです。私は正直にいえば、休み時間ならばどうしようもないのではないかと思いました。けれども、その当時の生徒は、数分前には席について黙想をしていて、それが現在も行われている黙想の始まりだと知りました。当時の黙想は、キワ先生や、キワ先生の方針に対する生徒達の敬意の表れだと思いました。そういう心が、百年以上経った今でも受け継がれていることはとてもすごいことだと思います。職員室への出入り、物の受け渡しなど、日常でよく使う動作を習ったときも、相手のことを思いやる動作が随所にありました。いつも相手が自分にしてくださったことへの感謝を忘れずに、相手に接することが大切だと気づきました。礼法を通して、学んだ「感謝」や「敬意」を忘れずに、残りの高校生活やその先も過ごして生きたいです。

鈴木 初陽(16歳)

私は初めて礼法を学んだとき、なぜ週に一回も授業をしなくてはならないのだろう、他校はしていない科目をなぜしているのだろうかと思っていました。しかし、授業を受けるたびに、「礼法」というのは、学校生活や部活動、社会において、とても重要なものだということを感じ始めました。私は人と話すのが昔から苦手でした。家族や友

だちなど仲のよい人と話すのはとても楽しく好きですが、先生や初対面の人、近所の方と話すのはとても苦手で、できれば話したくないと思っていました。礼法の授業で、「職員室の出入り」を学ぶときに「部屋の出入りの作法」も学びました。実践するときには動作と共に声の大きさを意識しました。何度も実践する機会があったので、声を出すことに慣れて先生に話しかけられても苦にならなくなりました。それから、近所の方と話しかけられても今までと違い、むしろ楽しくなっていました。声を出しただけでの授業を受けて良かったと思います。「礼法」の授業は今後多くの人と関わっていく高校生の私達にとっても大切な授業だと分かりました。これからは学んだことを生かし「礼法」を知らない他の学校の人にも広めていきたいと思っています。

今月の1枚「しめしめ…」

喜多川宗真(22歳)

